



①桜を見ながら食事を楽しむ「さくらビュープレミアムシート」利用者
②宇治川を下る「さくらであいクルーズ」

淀川河川公園のまつり 3年ぶり開催

桜舞う 背割堤

淀川河川公園背割堤地区で3月26日～4月5日の11日間、背割堤さくらまつりが開催され、約14万2000人の来園者が桜花爛漫を堪能しました。

市や京都府、淀川河川事務所などで構成される実行委員会が主催。新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催となった今回は、感染対策を徹底して行われました。

会場では、船上から花見を楽しむ「さくらであいクルーズ」の運行や観光ガイドによる桜のお話ツアー、淀川三川エリアのおいしい食べ物や並ぶマルシェなどを実施。今回新たに設置された「さくらビュープレミアムシート」では、利用者がゆったりとしたスペースで桜を見ながら食事などを楽しめました。

また、桜並木のすき間から木漏れ日が差す様子を写真に収めたり、さくらであい館展望塔からの景色を眺めたりしながら、来園者は春の背割堤を満喫していました。

福井県から訪れた筒井一彦さん(65)は、「念願が叶い、初めて来ることができました。今まで見た桜の名所のなかで一番きれいです」と話していました。

▲木漏れ日が差す桜並木

さまざまな作品が並ぶ会場



松花堂美術館で日本画展
8日まで



同展のために書き下ろした作品「八椿堂」

成17年に同館で個展を開催した縁から、松花堂庭園で有名なツバキをモチーフに書き下ろした作品「八椿堂」も披露されるなどし、来館者は足を止めて田島作品の幅広い世界観に触れていました。

同展は5月8日まで。観覧料は一般500円、大学生400円、18歳以下無料(大学生を除く)。

田島作品の世界観堪能

京都出身の日本画家・田島周吾さんの作品を集めた春季企画展「田島周吾 日本画の世界」が、4月2日から松花堂美術館で開催されています。

同展は、市制施行45周年と同館開館20周年を記念して企画されました。

会場には、田島さんが20代前半から20年以上にわたって書き溜めた作品のうち約40点を展示。旅先で見た建築物や、ハスの下で金魚すくいをする猫など、さまざまな作品が並んでいます。

また、田島さんの父親で絵本作家の田島征彦さんが、平

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙「つづみ」の意見を、秘書広報課までお寄せください。

国宝守る 新防災設備

国宝石清水八幡宮を火災から守るため、防災設備が新たに整備され、試験放水が行われました。

石清水八幡宮



▲石清水八幡宮本社への試験放水

手しました。

今回の整備では、ポンプ室と200Lの貯水槽を新設し、1分間に3Lを出力する動力ポンプ2基を配備。また本社の周りには、自動首振り放水銃など11基を設置し、万が一の事態に備えた初期消火の体制が整いました。

4月8日の試験放水では、本社やその周囲にある重要文化財の若宮社・若宮殿社に向けて、放水銃から一斉に放水が行われました。

今月のこの人

小学6年生の時 市長に要望書

パーク設置 行動力で実現



二人が小学6年生の時に市に提出したスケートボードパーク設置の要望書がきっかけで、同パークの整備が実現。中学3年生。

川口 佑大さん(右)
江藤 来樹さん(左)

完成したばかりのスケートボードパークで、次々と技に挑戦する川口さんと江藤さん。「こんないいパークを整備してもらえたのも、関わってくれたいろんな人のおかげ」と感謝の思いが溢れます。

スケボーを始めて1～2年がたった小学6年生の時、二人は市内に練習できる場所がなかったことから、市役所を訪れて市長あてに同パーク設置の要望書

とコースの図面を提出。小学校の先生や友だちから署名も集め、設置の実現に向けて行動しました。

二人の思いを受け、市は若い世代に新しいスポーツで活躍できる場を提供しようと検討を進め、男山レクリエーションセンターに同パークの整備を決定。設計には二人や地元スケボーショップの代表らも協力し、「京都で一番おしゃれなパークがで

きた」と喜びを語ります。

3月31日のオープン以降、市内外からたくさんの方が訪れる同パーク。二人は「ルールやマナーを守って、みんなが楽しめるパークになってほしい」と願いながら、このパークでますます技に磨きをかけます。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体を紹介しています。詳しくは、市ホームページまたは秘書広報課へ。